

事務事業評価シート

(評価対象年度：令和 2 年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名		信達樽井線改良事業				②事業番号		5107	
③事業類型		5. 普通建設事業		④開始年度	平成 8 年度	⑤終了予定年度	年度	○ 設定なし	
⑥根拠法令等	○ 法令	条例	規則	要綱	○ 計画等	その他	法令等の名称 都市計画法他		
⑦実施手法	直営	全部委託	○ 一部委託	補助・負担	その他				
⑧関連予算科目コード		款	7	項	4	目	6	細目	2
⑨担当部名		⑩担当課名					会計	一般会計	
都市整備部		道路課							

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)		対象指標(対象者数を表す指標)		単位
①	道路利用者	①	計画延長	m
②		②		
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)		活動指標(活動の量を表す指標)		単位
都市計画道路信達樽井線のうち、旧防潮堤から府道堺阪南線の間(計画延長742m)について、道路改良工事を行う。		①	投資済額	千円
		②	整備済延長	m
		③		
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)		成果指標(意図の達成度を表す指標)		単位
安全性・利便性を向上させる。		①	整備率(事業費ベース)	%
		計算式		
		②	整備率(延長ベース)	%
		計算式		
		③		
		計算式		
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)		総合計画体系上の位置付け		
市内の主要拠点を結び、市の骨格となる幹線道路の整備が促進される。		政策(章)	5	快適で活気にあふれ、環境にやさしいまち
		施策大(節)	2	活気にあふれるとともに快適で美しく、市内・市外がネットワークで緊密に結ばれ、だれもが使いやすいまちをめざします
		施策中	1	道路の整備
		施策小	1	幹線道路の整備

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H30実績	R1実績	R2実績	R3見込	R4目標	
対象指標①	計画延長	m	742	742	742	742	-	指標値の推移における特殊要因などの説明
対象指標②							-	
活動指標①	投資済額	千円	6,515,002	6,539,223	6,546,937	6,554,571	-	—
活動指標②	整備済延長	m	510	510	510	510	-	
活動指標③								
成果指標①	整備率(事業費ベース)	%	95	95	95	95	-	
成果指標②	整備率(延長ベース)	%	69	69	69	69	-	
成果指標③								
事業費	投入人員	人	0.10	0.25	0.42	0.42		事業費などの推移における特殊要因などの説明
	正職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	任期付職員	人	0.00	0.00	0.07	0.00		
	臨時職員	人	0.00	0.00	0.07	0.00		
事業費	人件費(投入人員*単価)	千円	811	1,928	3,331	3,205		R1年度に用地買収を実施したため、事業費が増加した。
	直接事業費	千円	938	24,221	7,714	2,134		
	総事業費	千円	1,749	26,149	11,045	5,339		
		千円						
財源内訳	国庫支出金	千円	0	13,101	4,160	825		
	府支出金	千円	0	0	0	0		
	受益者負担金	千円	0	0	0	0		
	その他特定財源	千円	0	10,000	3,500	600		
	一般財源	千円	1,749	3,048	3,385	3,914		

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	りんくうタウン内の基盤整備に合わせ、内陸部とりんくうタウンを結ぶ幹線道路を整備することで、利用者の安全性・利便性を向上させ、交通の円滑化を図るため。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	南海本線を越える樽井大橋が平成22年に完成し、一定の事業効果が発現されているが、残された区間の整備についても、継続して効率的に進めていく必要がある。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	—

3. 事務事業の評価【CHECK】

〔1〕目的妥当性(必要性)				〔1〕の評価	A
評価項目		評価及び理由・説明等			
①事業サービス内容、質、規模等は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)		ア. 合っている アイ. ある程度 ウ. いない	定められた諸基準に適合するよう、計画・設計をしている。		

〔2〕有効性				〔2〕の評価	B
②期待どおりの成果が得られていますか。		ア. 得られている アイ. ある程度 ウ. いない	予算の確保が難しく、整備延長が延びていない。		
③今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができますか。)		ア. ある アイ. ない	重点的なコスト投入は困難なため、今後も引き続き、予算の範囲内で成果の向上をめざす。		
④庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。		ア. 類似なし アイ. できる ウ. できない	他部署で類似の目的を持つ事務事業なし。		

〔3〕効率性				〔3〕の評価	A
⑤成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費＋人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などではありませんか。)		ア. ある アイ. ない	従前から引き続き、コスト削減に努めている。		

4. 総合評価

総合評価	評価(A～D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A:現状のまま事業を進めることが適当 B:課題が少しあり事業の一部見直しが必要 (事業の進め方に改善が必要) C:課題が多くあり事業の大幅な見直しが必要 (事業規模、内容、実施主体の見直しが必要) D:事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	B	整備率を向上させる為には、計画的な用地買収と交付金等の財源の確保が必要。	

5. 改革、改善案【ACTION】

<今後の方向性>	
イ	ア. 現状のまま継続 イ. 見直しのうえで継続 ウ. 終了 エ. 休止 オ. 廃止 (年まで) (年から) (年から)
b	<今後の展開方針> a. 重点化する(集中的なコスト投入) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) c. 効率化する(コストを下げる) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)
①改革、改善の具体案、実施年度など	他事業との関係で集中的なコスト投入が困難なため、予算範囲内での着実な進捗を目指す。
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策	—